

平成 20 年度当初予算 施策別概要

227 農林水産業を支える 技術開発の推進

(主担当部：政策部
科学技術振興センター)

- 22701 農業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)
- 22702 畜産業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)
- 22703 林業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)
- 22704 水産業を支える技術開発の推進
(政策部科学技術振興センター)

< 施策の目的 >

- (対象) 農林水産業者が
- (意図) 開発された技術を有効利用して、生産活動を行っている

< 施策の数値目標 >

施策目標項目 (主指標)		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H22 年度
研究成果が活用された件数	目標値	-	125 件	126 件	127 件
	実績値	127 件			

過去 5 年間の研究事業から生み出された研究成果のうち、次の 3 項目のいずれかに該当する
研究成果が活用された件数 技術移転、特許等の実施許諾、研究成果の製品・商品化

施策目標項目 (副指標)		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H22 年度
技術支援件数	目標値	-	1,326 件	1,336 件	1,336 件
	実績値	1,305 件			

当該年度における事業に基づく技術支援や、生産者・関係団体等からの技術相談、診断・検査等に対応した件数

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・ 県内農林水産業の課題解決や新たな農林水産物の生産技術などの研究開発を進め、その成果が農林水産業者において有効活用されるように取り組んできました。
- ・ 農林水産業における地域間競争が一層激化する中、地域の農林水産業を牽引する新しい特産物の開発や「三重ブランド」の創出・発展等、競争力を高めるための技術開発が求められています。
- ・ 消費者の安全・安心に対する関心の増大や地球温暖化の影響等による農林水産物の生産環境の変化への対応、さらには環境に配慮した生産活動等が求められており、農林水産物の高品質化のみならず、安全性の確保や生産活動の持続性・安定性・効率性を高めるための技術開発、環境保全や資源循環型の技術開発ニーズが一層高まっています。

< 平成 20 年度 of 取組方向 >

農林水産物の競争力を高めるために、水稻・カンキツ・野菜・きのこ等の新品種・地域特産物の開発に取り組むとともに、松阪牛、伊勢茶、真珠、イセエビ、マハタ、クエ等の「三重ブ

ランド」の創出・発展に向けて農林水産物の高品質化をめざします。

安全・安心確保のために、農薬使用量の低減をめざす技術開発や薬剤に頼らない飼養管理技術の開発に取り組みます。

農林水産物の生産を支えるために、消費者や生産者のニーズに的確に対応し持続性・安定性・効率性の向上をめざす基盤的技術の開発や、病虫害・獣害防除技術の開発、県産材の用途を開拓する技術の開発、および水産資源の維持管理の調査研究に取り組みます。

環境保全や循環型社会の実現に貢献するために、耕畜連携による家畜ふん堆肥の循環利用や、粗飼料生産と乳牛への給与技術の開発に取り組むとともに、干潟・藻場の再生・回復技術や赤潮発生の防止技術等、閉鎖性海域の環境再生に向けた研究に取り組みます。

<主な事業>

(重)伊勢茶リフレッシュ支援技術開発事業費

【基本事業名:22701 農業を支える技術開発の推進】

予算額: 5,100千円 → 4,845千円

事業概要:伊勢茶のブランド力の向上に貢献するため、品種特性に応じた栽培法や新植園の省力管理法を確立するとともに、茶園環境改善による早期成園化技術開発等に取り組み、三重県の茶業界が行う「伊勢茶リフレッシュ運動」を支援します。

イセエビ種苗の効率的安定生産に関する研究費

【基本事業名:22704 水産業を支える技術開発の推進】

予算額: 2,651千円 → 3,716千円

事業概要:イセエビ幼生の飼育システムを改良して一層の飼育効率の向上をはかるとともに、薬剤を用いない疾病の予防技術を確立し、幼生の生残率向上など飼育技術をさらに高めます。

抗菌性物質無添加飼料給与による豚肉生産技術の開発費

【基本事業名:22702 畜産業を支える技術開発の推進】

予算額: 1,666千円 → 1,164千円

事業概要:養豚農家では疾病の予防や発育改善を目的に抗菌性物質を添加した飼料が一定期間給与されていますが、一方で消費者からは安全安心に対する強いニーズがあるため、抗菌性物質を添加しない飼料の給与による豚肉生産技術を開発します。

(新)スギ梁桁材の効率的乾燥技術に関する研究事業費

【基本事業名:22703 林業を支える技術開発の推進】

予算額: -千円 → 2,850千円

事業概要:長伐期人工林から生産される中・大径丸太を梁桁材として利用拡大するために、従来の天然乾燥や蒸気式乾燥における得失をまとめ、効率的な県産スギ等梁桁材の乾燥技術を確立し、梁桁材乾燥マニュアルを作成します。

耕畜連携による粗飼料生産と乳牛への給与技術の開発費

【基本事業名:22702 畜産業を支える技術開発の推進】

予算額: 7,321千円 → 7,057千円

事業概要:飼料自給率の向上をはかり資源循環型酪農に貢献するため、水田で生産される粗飼料の高品質化と栄養価の向上をはかるとともに、それを用いた乳牛飼養技術を開発します。